

Application for Participation

Associated Schools Project (ASP) for Promoting International Education

人々の生活や地域文化・環境を守り続ける生徒の育成
～ボランティア活動や地域住民との交流を通して～

Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution

(please use extra sheets if necessary)

Description of the Project (プロジェクトの歴史)

本校のボランティア活動の歴史は古い。1993年7月12日に起きた北海道南西沖地震で奥尻島が地震と津波により壊滅的な被害を受けた。この震災を目の当たりにした当時の2年生女子生徒が「無力な中学生にもできることをやろう」と演説したことから、1994年11月より、アルミ缶の回収をはじめるとともに、福祉ボランティアに生徒会ぐるみで積極的に参加するようになった。豊城中ボランティアは一歩ずつ確実な歩みを見せ、今は生徒会活動の支柱となっている。

ボランティア活動は、私たちが社会生活を営む上で誰もが一人では生きていけないという共同意識、連帯感に基づいた活動であり、ともに築きあげる地域づくりを目ざして、自発的に無報酬で参加をするものである。それは与えるということではなく、むしろ「学び合い」「育て合い」である。ボランティア活動を通して、社会連帯の意識を育て、相互理解の関係をつくりだしていきたい。

今日、ボランティア活動への関心の高まりと価値観の多様化の中で、ボランティア活動が「少数の人がおこなう特別な活動」ではなく「誰でもできる身近な活動」になってきた。ボランティア活動を「自発的におこなう社会活動、地域活動」ととらえ、身近な地域の施設や福祉団体での活動体験を通して地域の福祉に貢献していく気持ちを育てたい。

また、本校では、地域に伝統芸能である人形浄瑠璃があり、それを部活動として受け継いでいる。文化祭講座や1年生体験講座として多くの生徒が人形浄瑠璃にかかわっている。

そして本校北側に流れる市内最大の河川である豊川の環境を守ろうと「豊川クリーン作戦」を毎年行っている。

自分一人だけが幸せになるのではなく、「世界中にいる生活困難者の少しでも役に立ちたい」「地域文化の継承・環境の保全活動をしてこう」という持続可能な開発のための教育を実践していきたい。

Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

(1) 収集ボランティア活動 (全校生徒)

様々な福祉活動に役立てられる収集の取り組みは、誰でもできるボランティア活動である。

一人一人の小さな協力が大きな力となり、多くの人が参加協力できる学校での活

動は効果的であるため、生徒会執行部、福祉委員会の活動を中心により多くの生徒が地域福祉への参加を「体験」することができ、ボランティア活動をより身近なものにしていくことができる。

① アルミ缶収集

全校で集めたアルミ缶を豊橋善意銀行に届け、福祉に役立てていただくために行っている。

② エコキャップ回収運動

福祉委員会を中心にペットボトルキャップを回収し、NPO 法人に送ることでCO2 の削減、環境保全、ワクチンの購入をめざしている。

(2)木曜ボランティア

私たちの身の回りには、目が不自由な人、耳が不自由な人がいる。そのような障がいのある人たちとコミュニケーションをとりたいという生徒たちが木曜日の授業後、点字や手話を学習している。

また、学校の近くにある病院に行って手伝いをしたり、患者と触れ合っ入院患者との接し方を学んだりしている。

(3)人形浄瑠璃(地域の文化)

地域にある江戸時代以前から続く「吉田文楽人形浄瑠璃」を学び継承する目的で、部活動で人形浄瑠璃部を設置したり、文化祭での体験講座や1年生が人形浄瑠璃学習会を体験したりして、多くの生徒が地域の文化に触れている。

(4)豊川クリーン作戦

学校のすぐ北側を流れる豊川は、本校の環境には切り離せない重要な川である。ここを清掃することで地域の環境を保全していこうという意欲を育てている。

(5)国際交流 シャンジープロジェクト

時折本校に訪問する外国人の方と接することにより国際感覚や外国人との付き合い方を学んでいる。

Execution

(e.g. through a specially designed course, through an existing course(s) or as an extracurricular activity)

4月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> シャンジープロジェクト訪問団 </div>	~年間を通じて活動するもの~ アルミ缶回収・寄付 エコキャップ回収・寄付
5月		
6月		
7月		
8月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 豊城祭文化の部 人形浄瑠璃講座 </div>	木曜ボランティア 人形浄瑠璃部
9月		
10月		
11月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 豊川クリーン作戦 1年人形浄瑠璃学習会 </div>	

12月	
1月	
2月	
3月	

(1)収集ボランティア

①アルミ缶収集

福祉委員会が随時回収する日を設定し、全校生徒でアルミ缶を収集した。本年度は、11月現在で545kgという膨大な量のアルミ缶を集めることができた。それを豊橋善意銀行に送り、福祉に役立てている。



② エコキャップ回収運動

この活動は再資源化や二酸化炭素削減という環境保護にも繋がるが、一番の目的は【たくさん集まったペットボトルキャップ】人の命を救うことである。医師でない生徒たちができることの 하나가、この「エコキャップ回収運動」である。これからも、少しでも多くの命を救うために活動していきたいと生徒たちは熱意を燃やしている。豊城中学校の「エコキャップ回収運動」は校内だけでなく、隣接する市役所にも回収箱を設置させていただき、地域の人々にも協力を得ている活動である。2009年から累計1,374,074個のペットボトルキャップを回収しNPO法人「エコキャップ連絡会」に送り1,700人分以上のワクチンを購入し、世界中の子どもたちが使っている。

(2) 木曜ボランティア体験

本校では、毎週木曜日の部活動を休止している。部活動がない木曜日に「木曜ボランティア」という名称で手話・点字・病院訪問の3つの活動を行っている。

① 手話体験

耳が不自由な方とコミュニケーションをとるために、手話ができる講師を招いて生徒たちが手話を学習している。手話を通して聴覚障がいのある人々への理解をすすめている。五十音からはじまり、簡単な会話ができるくらいまで学習している。



【手話を学ぶ生徒たち】

② 点字体験

二人の講師を招いて視覚障がいがある方に提供する点字絵本を作っている。完成した点字絵本は児童向けの点字絵本として実際に使ってもらっている。

③病院ボランティア

校区にある病院へ木曜日の授業後4～6名の希望者が出かけ、入所者の話し相

手やレクリエーション活動を行っている。入所者には、若い中学生と語り合うのはとても好評で楽しみにしている方が多い。

生徒たちにとってもお年寄りや患者との接し方を学ぶよい機会となっている。

(3)人形浄瑠璃（地域の文化）

本校には全国的にも珍しい「人形浄瑠璃」部が設置されている。地域にある江戸時代以前から続く「【入院患者と触れ合う生徒たち】吉田文楽人形浄瑠璃」を学び継承する目的で、毎日練習している。部活動で人形浄瑠璃部を設置し、文化祭講座や1年生人形浄瑠璃学習会でも多くの生徒が地域の文化に触れている。



【人形浄瑠璃の指導を受ける生徒】

(4)豊川クリーン作戦

毎年、本校では、10月に「豊川クリーン作戦」と題して豊川周辺を清掃している。全校生徒が参加し、母校と接する川のごみ拾いや草取りを行い、地域の環境保全を目指している。

(5)国際交流 シャンジープロジェクト

日仏通商条約150周年を機に始まった相互交流の一環で、フランス・ロワレ県シャンジー市関係者とシャンジー音楽学校の人々が本校を訪れた。本校の人形浄瑠璃部の演舞、吹奏楽部の演奏、シャンジー訪問団からのフランス紹介クイズなど楽しい交歓会を行い、外国の人々との接し方を学んだりフランスの理解を深めたりした。今後も外国人の方との交流を積極的に行っていきたい。



【人形浄瑠璃を演じる生徒】



【豊川の清掃をする生徒】



【シャンジー訪問団との交歓会】

Types of materials to be used (使用する教材)

「福祉施設エリアガイド」	豊橋市社会福祉協議会ボランティアセンター
「ほっと！すてっぷ」	豊橋市社会福祉協議会ボランティアセンター
「福祉ボランティアガイド」	豊橋市社会福祉協議会ボランティアセンター
「学ぼう身近な福祉 福祉教室ガイド」	豊橋市社会福祉協議会ボランティアセンター
「人形浄瑠璃 文楽の歴史と吉田文楽」	吉田文楽保存会
「校区のあゆみ」	豊橋市総代会
「中学校キャリア教育の手引」	文部科学省平成23年3月版
「豊城40年」	豊城中学校
「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」	文部科学省平成22年11月版

軍手、竹ぼうき、庭ぼうき、熊手、ごみ袋

Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

生徒の理解と姿勢の評価は、以下のように行う。

- ・生徒の様々な活動への取り組みの成果を事後のまとめや感想、発表から把握する。
- ・学習や活動のまとめとしてつくられた新聞や報告書の内容、体験学習会における意欲や態度を評価する。

上記の評価とともに、学校評議員を通じた地域からの評価や行事・保護者会後のアンケート調査、学校教育活動全般にわたって全保護者・生徒を対象とした年間2回のアンケート調査等から生徒の実態や地域の特色に沿ったESD活動になるように見直しを図り、地域ボランティア活動の改善を図る。

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)

Date (日付)

Principal's name (校長名 (※直筆))

Position, (役職)

Institution's name (学校名)

